

[博士論文審査要旨]

申請者：大倉 邦夫

論文題目「社会的協働の形成と発展のプロセス—エコログ・リサイクリング・
ジャパンによる繊維リサイクル事業を通して—」

審査員 谷本 寛治
佐藤 郁哉
田中 一弘

本論文は、社会的協働の形成と発展プロセスを、複数の企業が協働して取り組んでいる使用済み繊維リサイクル事業の事例研究を通して考察したものである。すなわち、繊維、資材、アパレルメーカー等が共同出資して設立した(株)エコログ・リサイクリング・ジャパンによる繊維リサイクル事業：エコログ・リサイクリング・ネットワークの調査、分析を通じて、社会的協働の形成プロセスと、社会的協働がその参加企業の社会的課題に対する認識や行動の変化に及ぼす影響を解明している。繊維製品のリサイクルは、繊維産業の特殊な生産・流通構造や、素材の複合度の高さ、さらにはリサイクル法が制定されていないこともあり、十分な進展を見せていなかった。本論文で取り上げられたエコログ・リサイクリング・ジャパンは、複数の企業が協働することで、これまでこの業界には存在しなかった新たなリサイクルシステムの可能性を示したユニークなケースであり、本研究によりその協働プロセスが初めて明らかになった。

本論文において評価すべき点は大きく3点あげることができる。第1に、詳細なフィールド調査や繊維製品のリサイクルに関する文献資料調査を丹念に行い、未だ明らかにされていなかったエコログ・リサイクリング・ネットワークが生み出されていくプロセスを丁寧に描き出している点にある。第2に、エコログ・リサイクリング・ネットワークにかかわる企業関係者の相互作用に着目し、これまでの社会的協働の研究で十分に議論されてこなかった、社会的協働を形成していく際の推進者の役割やそれぞれの企業内における資源動員のプロセスを明らかにしている点にある。第3に、エコログ・リサイクリング・ネットワークの参加企業の間で行わる組織間学習に焦点を当て、参加企業の内部においてリサイクル事業に関する認識や行動が深化していくプロセスを示している点にある。これらは社会的協働に関する既存研究の不足を補っていると言える。

他方、本論文にはいくつかの課題も残されている。社会的協働分析のフレームワークについて、既存研究の知見を援用しているが、社会的協働における特徴についてもう少し議論を加えることができるであろう。また他のリサイクルシステムや海外の繊維産業との比較を行うことができれば、日本の繊維産業におけるリサイクル事業の特殊性をより明確に描き出すことができるであろう。リサイクル事業にかかわる企業ごとの認識や行動の深化のちがいについては、それぞれの企業の規模、組織構造、置かれた環境などを考慮することによって、より明確に分析できると言えよう。

しかし、このような課題があるにもかかわらず、本研究がフィールド調査を通して明らかにした事例分析とそこから得られた貢献は大いに評価できるものである。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせて考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。